

## 2016年度日本語教育実習 最終レポート

3年間の日本語教員養成課程で、まず、人前に立って話すことへの恐怖感が変わりました。1年時、授業の最後にその日に学んだことと自分の考えを発表する時間があり、なるべく紙を見ずに聞いている人を見ながら話すということが難しく、緊張しながらその時間の間必死に話していたのを覚えています。うまく言わなければという気持ちからの焦りや、みんなが自分に注目しているという緊張、早く終わらせたいという気持ちなどで、下を見ながら早口になっていました。一人が先生役で他の履修生が学習者役をする形で、前に立ってフラッシュカードの練習をしたり、会話をしたりする練習を繰り返す時も、常に緊張で落ち着いていなかった。しかし、そういった練習を繰り返したことで、三年次に実際に留学生やクラスメートの前で授業したことで、最後は「十数名の前で約1時間自分が授業をする」という一年の時には想像もできなかったことができるようになりました。そのおかげで、今はグループ内やクラスで発表をする時も、そんなに緊張せず、紙もほとんど見ずに落ち着いて話すことができます。話す時の気持ちの持ちようが楽になった気がします。先日の各実習生が「実習を通じて成長したことやこれからの課題」について発表した時も、落ち着いてみんなの顔、反応を見ながら言いたいことが言えたと感じています。

次に、観察力です。横溝先生から「今自分の受けている授業の先生を観察してみるといいよ」と言われても、1.2年の時は意識も低く、見るといってもどこを見るか悩んだり、そんなに気付かなかつたりしたことが多かったのですが、実習が始まって実際に自分が教えだすと、自分の問題点や分からないところも具体的に分かるので、自分も知らないうちに自分のする授業に関連付けて物事を見るが多くなりました。私がフィードバックや学習者との会話を広げていくのが苦手かどうか考えていた時は、〇〇先生の授業に注目していました。他の授業では全く集中していない人でも、ほとんどの学生がこの授業は集中して受けている、その理由は何だろうと考えて観察しているうちに、いくつかの方法に気付きました。それは、学生が答えた単語から関連のある単語、関連のあるエピソードや時事のニュース、その時事のニュースの英単語などと教える内容を広げていく方法や、例えばニュースの題が「楽器の演奏ができるカラオケ」であつたら、その話を生徒に「楽器は何かひけますか?」「カラオケよく行きますか?」と個人に聞いていく方法などでした。日ごろ歩いている時にも、「この看板は漢字の授業で使えそう」「この標識は禁止の文の練習に使える」などと考えることが多くなりました。実習が終わった今でも授業を観察してしまいます。また、実習の授業でも、最初は自分のことで精一杯で学習者をあまり見ていませんでした。きちんと見ていなかったのも、発音の違いにも気づけないこともあり、学習者が理解していないということにも気づかずそのまま進めてしまっていたということもありました。そのことに気付いてからは、自分で学習者をしっかり見ることを意識するように心がけ、理解していないから違う言い方をしよう、発音ができてないから板書をしよう、集中力が切れて退屈そう

だから違うやり方でしてみよう、スピードについて来られているのかなど、まだ全てではないですが、前よりは気付いて対応できるようになりました。

1.2年の時にはあまり責任感を感じたことが無く、教育実習の授業をする前までは、時間配分も多分これくらいだろう、たぶん大丈夫だろうという感じだったのですが、「お金を払って、日本で働くために1年間で日本語を身につけようと一生懸命勉強している学習者の時間を無駄にできない」また「手助けがない状態でしっかりと決められた時間内に一人で授業を行わなければならない」という状況の下、授業をするということに対しての責任感が強くなりました。時間配分をしっかりと計算し、無駄な時間を減らすために前もって準備できるものは準備して、教案も学習者をメインに据えた内容にしました。模擬授業などの時は時間をどこでつぶすことができるかを考えていた私ですが、今では「無駄な時間を作らないためにはどうしたらいいか」「授業をどう構成すれば学習者が分かりやすいか」「ひとりよがりの授業にならないように、学習者に発言してもらうにはどうすればいいのか」「何度も同じこと繰り返し練習していると感じさせないためには、練習の種類、ペアワークの内容はどうすればいいのか」等を主に考えています。最初の教案と最後の教案とを比べると、本当に違っています。内容の細かさだけでなく、パッと見ても分かりやすいように、太字にしたり色を付けたり書き込んだりして、自分なりに工夫した見やすい教案になっています。教案、教材の準備の大切さを実感しました。練習を何回もすることで自信をつけ、本番に少しの余裕を持って臨むことで、自分の事だけでいっぱいにならずに、学習者とともに楽しみながら授業をすることが少しずつできるようになりました。また、学習者が楽しそうな時は私自身も楽しいし、毎回授業を終えるたびに感じる達成感が大きくなりました。それと同時に、「こうすればよかった」と悔しく思う気持ちも、回数を重ねるたびに強くなっていきました。

私はこれらの成長をまずはこれから始まる就職活動、そして就職後に活かしていきたいと考えています。これらの経験で何かと自信がつき、人前に立って話すことにも少しは慣れたので、絶対に緊張するであろう就職活動の面接の時にも、堂々と自信をもって焦らずに言えるように、また授業中に気を付けていたアイコンタクトや表情への配慮も忘れないように心がけたいと思います。そして、めざす接客業に就職できた暁には、日本語の授業で身につけた観察力を活かして、お客様の様子にいち早く気づいて接客をしたり、何か困っていそうであれば手助けをしたりして、指示されたことだけをやるのではなく、「周りを見て今何が必要なかを自分で判断して行動する」気の利く人になりたいです。卒業後の仕事は、現在行っているアルバイトとは違う責任感が伴います。日本語授業の準備・本番で感じた責任感を忘れずに、最初から自分のすることに責任を持って行動していきたいと思っています。